

BECC JAPAN 2025 ポスター発表要項

BECC JAPAN 事務局

2025年7月23日

(重要) 参加者登録について

発表者の皆様には別途、参加者登録と参加料金のお支払いが必要です。

以下の URL よりお手続きをお願いいたします。

※参加登録の際は発表者区分のチケットをご選択ください

<https://beccjapan2025.peatix.com/>

1. ポスター・資料のご準備について

- 推奨ポスターサイズ：A0 版 (約 120 cm×85 cm)
- 提供するパネルのサイズ：約 170 cm×90 cm

2. 発表プログラムについて

所定の時間帯に発表をお願いいたします。

なお、今回は参加者間投票を行うことと、ポスターの入れ替えを行う都合上、発表時間は厳守とさせていただきます。

- ポスターセッション (各セッションへの割り当てについては次ページ以降を参照)
 - ポスターセッション A：15:00-15:30 (2F ホワイエ)
 - ポスターセッション B：15:30-16:00 (2F ホワイエ)

3. 発表当日について

- **当日のポスター発表時間前**までに発表番号が記載された指定のパネルにポスターを掲出して
ください。
- 資料の事前郵送は受け付けておりません。
- 掲出用の資材として PUSH ピンを事務局でご用意いたします。
- マグネット・テープを使用することはできません。
- 掲出したポスターは発表終了後、交流会終了時までに必ずご自身でお持ち帰りください。

4. 資料の提出について

当日のポスター資料につきまして、公開可とされた発表者の皆様は **8月25日(月)までに** 下記オンラインリンクよりアップロードをお願いいたします。

公開の可否は発表申込時に確認しておりますが、変更になった場合は事務局までご連絡ください。**(公開いただけない場合、参加者間投票による表彰の対象外とさせていただきます。)**

ポスター資料 (HP 公開用・資料公開を了承した方は必須)

- ファイル名は「P99_発表者氏名.PDF」(P99 はご自身の発表番号) としてください。
- 修正等により差し替えを行う場合はファイル名の末尾に「_v02」とバージョンがわかるように記載したうえで再アップロードしてください。

アップロードリンク : <https://www.dropbox.com/request/ViYn3LHBHZ6yeuceLSTd>

※上記リンクからアップできない場合はメール(info@seeb.jp)にてお送りください。

(補足) 発表資料の公表について

- いただいたポスター資料につきましては本会議の1週間前頃より参加者限定で公開します。また、本会議終了後から半年後を目途に一般公開いたします。

5. 参加者間投票について

- 発表資料の公開を可としていただいた発表につきましては、参加者による投票を行い、口頭発表と合わせて特に投票の多かった3本程度を表彰いたします。
- 受賞者は当日のクロージングセッション(16:40-17:00)にてご登壇いただきますので、ご予約いただきますようよろしくお願いいたします。

ポスター発表に関するお問い合わせ先

気候変動・省エネルギー行動会議(BECC JAPAN)事務局 (株式会社 住環境計画研究所 内)

担当: 小林、森

mail: info@seeb.jp

発表一覧

※ライトニングトーク発表の発表順は発表番号順となります。

※ポスターセッションの在席時間は「セッション」欄からご確認ください。

ポスターセッション A：15:00-15:30

ポスターセッション B：15:30-16:00

発表番号	セッション	発表者氏名	発表者所属・役職	発表タイトル
P01	A	増原 直樹	兵庫県立大学環境人間学部 准教授	兵庫県内の自治体におけるCO2 排出構造と脱炭素政策形成プロセス
P02	B	新井 智	横浜国立大学大学院環境情報学府	環境キャラクターの有効性：キャラクターの擬人的認識の観点から
P03	A	笹岡 恵梨	東京ガス 主任研究員	在宅避難時におけるエネルギーの備えに関する研究
P04	B	高橋 舞	奈良女子大学人間総合文化科学研究科 博士前期課程2年	一般消費者を対象とした再生プラスチック製品の選択行動
P05	A	貝増 匡俊	神戸女子大学 教授	ナッジ効果を活用したマイボトル用フレーバーの利用促進事例
P06	B	赤石 記子	東京家政大学栄養学部 准教授	台所家電製品の省エネ効果の高い使用方法の検証
P07	A	西尾 健一郎	電力中央研究所 上席研究員	足元における電力需要動向と節電実態
P08	B	平野 勇二郎	国立環境研究所 主幹研究員	脱炭素型ライフスタイル実現に向けたデマンドレスポンス導入のポテンシャル評価
P09	A	小林 浩人	日本オラクル Opowerソリューションコンサルティング	米国エネルギー事業者におけるマルチチャンネルアプローチによるピーク削減の実践事例
P10	B	天野 晴子	日本女子大学 家政学部 教授	電気自動車（EV・PHEV）に関する生活者の意識と行動
P11	A	中野 一慶	電力中央研究所 社会経済研究所 上席研究員	ZEH の多面的便益への関心向上のきっかけは何か
P12	B	坊垣 和明	東京都市大学 名誉教授	集合住宅における省エネ改修効果と居住者の意識・行動、エネルギー消費量の変化

P13	A	小林 翼	住環境計画研究所 研究員	家族のライフスタイル変化を取り入れたエネルギー需要変動モデルの検討
P14	B	何 清怡	住環境計画研究所 研究員	心理要因と行動モデルを用いた夏季オフィス冷房負荷シミュレーション
P15	A	范 理揚	日建設計総合研究所 主任研究員	環境配慮行動を促す、ワーク・ライフスタイルに基づく CO2 排出量可視化ツールの開発
S01	B	日室 聡仁	NEC ソリューションイノベーター イノベーションラボ トリ プロフェッショナル	AI とのコミュニケーションによって環境配慮行動は促進されるのか？

ポスターセッション時の会場レイアウト（予定）

